

阿蘇町塔ノ木古墳群^{ドンベ塚} 阿蘇町御塚横穴群A・B穴

目次

はじめに	
阿蘇町塔ノ木古墳群ドンベ塚	1
Ⅰ 塔ノ木古墳群	1
Ⅱ ドンベ塚	3
阿蘇町御塚横穴群A・B穴	4
Ⅰ 御塚横穴群	4
Ⅱ A穴	4
Ⅲ B穴	9
Ⅳ 出土遺物	14
Ⅴ 御塚古墳群の時代	17
Ⅵ まとめ	18



第1図 塔ノ木古墳群①と御塚横穴群②の位置

序 文

この報告書は1975年に実施した阿蘇町塔ノ木古墳群と御塚横穴群に関する実習調査の概略の記録である。

当時は研究室の発足後日が浅く、学習する書籍にも不自由した頃で、現在よりもっともっと貧乏であった。報告書の印刷費など思いもよらず、原稿をそのまま阿蘇町教育委員会にあずけて、若し差しつかえない機会があれば町関係の印刷物の片隅に載せて欲しいとお願いしておいた。

今回その機会を教育長中村耕作氏が提供して下さった。早いものであれからひと昔ほど経っている。原稿のことを覚えていて下さっただけでも有難いことであるのに、当方の文だけを抜き刷りし、別の表紙をかけて配布することをお許し下さった。大へんな御好意である。

ところでこの略報の内容は今読みかえしてみても興味津々たるものがある。現在であれば須恵器の古さに腕組みして墓室との年代観の齟齬に立ち尽すこともないであろうし、マウンドを持つ横穴の例も諸方で知られはじめているからである。

若し当時に出版の経費があったなら、この実習に参加した諸君は、先駆的な所見例としてしばしば引用される報告書に名を連ねて鼻を高くすることができたであろうに、いささか気の毒である。それでもなお閉塞の仕方にその余地が残っているので、この先の楽しみが全くないと云うわけでもない。だから、諸君らの手許にこの小冊子を送り届けるのがひどく楽しい。現在アメリカで講義中の小谷凱宣助教授もなつかしがって下さるだろう。

終りに、阿蘇町教育委員会に重ねて御礼申しあげると共に、島津義昭・清田純一の両氏がこの小冊の実現に御尽力下さったことを記して御挨拶にかえたいと思う。

1982年 5 月 20 日

白木原和美

例 言

昭和50年度夏期実習調査を次の要領で実施した。

1. 調査対象と調査内容

- (a) 熊本県阿蘇郡阿蘇町大字小里字原口、塔ノ木古墳群ドンベ塚古墳の実測調査
- (b) 熊本県阿蘇郡大字宮原字前田、御塚横穴群A・B穴の実測調査
- (c) 同上A・B穴の発掘調査

2. 調査参加者と組織

指導 阿蘇町教育長 中村耕作 他 教育委員会職員
熊本大学法文学部教授 白木原和美 他 研究室員
総括 平野芳英・山本京子（修士課程）

実測実習班

ドンベ塚担当

津曲直子（2年次生）・工藤潤子（2年次生）

村田多津江（2年次生）

御塚A・B穴担当

高瀬哲郎（4年次生）・津曲直子（2年次生）・工藤潤子（2年次生）

村田多津江（2年次生）・高山久美子（2年次生）

発掘実習班

御塚A穴担当

柴尾俊介（4年次生）・新谷直子（4年次生）

安部克子（3年次生）

御塚B穴担当

渡辺一雄（4年次生）・三好 理（3年次生）

田中寿夫（3年次生）

3. 調査期間

自昭和50年9月6日 ～ 至14日